
世紀末の魔術師～その後～

a n g e l

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

世紀末の魔術師〜その後〜

【Nコード】

N1725F

【作者名】

angel

【あらすじ】

劇場版世紀末の魔術師のその後。キッドとコナンのお話です。

（前書き）

これは今日、テレビで放送されるから作りました！
急いで作ったんでどうかнатとは思いますが・・・

コナンは窓の外を眺めていた。そして考え事をしていた。

その日コナンは驚いていた。

今日は蘭に正体がばれそうになり、怪盗キッドがたすけにきた。

「ああ、今日は大変だったぜ」

気が付くとそう漏らしていた。

コナンはこんなことを考えていた。

よくよく考えて見れば変な話だ。フツー俺が工藤新一ってことにきづくか？

それに電話してたのを聞いてたとしても、マトモに受け止めれるはずがねえ。一体なんで納得したんだ？

そんなことを考えているうちに怪盗キッドの正体が知りたくなつた。するとほかってか、はからずか、タイミングよく怪盗キッドが降り立ってきた。

コナンはキッドと話した。

「お前、俺の正体知ってるだろ？」

キッドは当たり前かと言うように答えた。

「そんなのわかりますよ」

「何でだ？フツー驚くだろ」

「それは言えません」

コナンは、その返答に不満だったが、なんとなく理由がわかったの
で聞かないことにした。

「オメーの名前は？」

核心を突いた。意外にもあっさり答えてくれた。

「黒羽快斗だ。お前と同じ学年だぜ」

コナンは疑問が解けて納得したようだった。
逆にキッドが話しかけてきた。

「他に聞きたいことは？」

「とりあえず、こんなもんかな？」

「今来た理由はそれを教えに来たんだよ。探偵君？なぜかわかるか
な？」

コナンは心の中でつぶやいた。

（わかるさ、それぐらい）

キッドはそのあと去っていった。

2人は、その日から絆のようなものが生まれていた。

（後書き）

「駄文じゃねーか!!」

と思った方々は多いでしょう。
そのとおりです。すみません。

ホントは蘭も書こうと思ったのですが・・・
もし、あった方がいいと思う方がいれば言ってください。これより
はまともに書きますんで・・・

この文章を読んでくださった方、本当にありがとうございました！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1725f/>

世紀末の魔術師～その後～

2010年10月14日01時43分発行